

多様な教育的ニーズに応じた教育実践

～知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現するために
必要な学習指導と評価の在り方～

千葉県立君津特別支援学校

電話 0439-55-4333

FAX 0439-55-7859



研究のポイント

知的障害のある児童生徒の各教科等を合わせた指導において、学習の内容・方法・評価について、単元記録表、評価表を用いて整理する。単元記録表で、各教科等を合わせた指導における各教科等の関連を明らかにし、評価表で、評価の3観点をもとに実態把握も含めて評価し、これらを活用しながら改善を図った。さらに、児童生徒の質の高い学びに向け、単元記録表と評価表がどのように関連し、生かされたかを検証した。

■学校の概要

<http://cms2.chiba-c.ed.jp/kimitsu-sh>

昭和54年に開校し、知的障害、病弱のある児童生徒を対象とした学校である。木更津市、君津市、富津市の三市を学区とし、小学部、中学部、高等部と重度重複障害の児童生徒で編制したみどりグループがある。児童生徒数は本校251名、児童心理治療施設の児童生徒が通う上総湊分教室（小・中）14名、合計265名であり、児童生徒数が年々増加している。（H30.5.1 現在）

■研究課題

各教科等を合わせた指導について、評価の観点や各教科等の目標や内容の明確化を図り、効果的な指導方法について研究する。

■研究の目的と方法

【目的】

- 各教科等を合わせた指導において、単元記録表に実践を記録し、関連する各教科等の目標や内容を明らかにする。
- 各教科等を合わせた指導で、一人一人の児童生徒につけたい力を意識した評価の観点を明確にし、評価内容と評価方法の見直しをする。

【方法】

- 各学部、グループで各教科等を合わせた指導を選び、単元（題材）記録表を作成し、年間目標、単元目標を3観点で立てて、実践を記入する。関連する各教科等の目標や内容を新学習指導要領の目標・内容から書き出す。
- 各学部、グループ毎に児童生徒の実態に合った評価表を作成し、児童生徒につけたい力を項目化する。評価表で実態把握・手立て・変容を記録する。
- 単元記録表と評価表がどのように授業作り（手立ての工夫・改善）に生かされているか授業研究会で検証する。

■研究概要

【仮説】

○各教科等を合わせた指導における各教科等の目標や内容を明確にし、評価の観点をもって評価方法の見直しを図っていくことで、知的障害のある児童生徒の質の高い学び（すすんで学び、考え、行動する子）が実現するであろう。

【成果】

・単元記録表の作成

実践を記録することにより、目標や活動内容の見直しができるようになった。そのことにより、教員の共通理解・意識の変化が授業改善につながった。

・評価表の作成・活用・改善

児童生徒につけたい力や目指す姿が明確になった。評価表の項目があることで、複数の教員の目で評価することができるようになった。

・授業研究

各教科等の目標や内容を意識したことで、指導案に単元と各教科等の関わりを図で示すことにより、関係性が明確になった。評価表による実態把握や目標設定により、手立てがより具体的になり、教材教具の工夫につながった。

【課題と今後に向けて】

・単元記録表の改善に向けて

関連する各教科等の目標・内容を書き出したが、どの規準で取舍選択したらよいのか、書き出した各教科等をどのようにいかしていくのか。

⇒書き出す各教科等の精選をする。

年間目標を3観点で立てることが難しかった。3観点の意味を教員間で確認する必要がある。

⇒3観点について研修を行い、各学部で年間目標を設定する。各学部間の目標の系統性を意識する。

・評価表の改善に向けて

評価表の項目や規準で評価することが実態に合わない児童生徒もいる。評価の項目、評価の仕方の改善が必要である。

⇒活用しながら、使いやすく、分かりやすい形式に変えていく。

・授業研究会の改善に向けて

授業研究会では、講師より、児童生徒の主体的な学びにつながる振り返りの大切さを助言としていただいた。

⇒授業における振り返りの方法や主体的で対話的な深い学びを目指した授業作りをしていく。